

平成 29 年度第 2 回 鹿屋市高齢者保健福祉推進協議会 議事録

日 時 : 平成 29 年 10 月 5 日 (金) 13:30 ~ 場 所 : 鹿屋市中央公民館

協議内容	(2) 介護サービス利用者、事業者意向調査結果について
主な質疑	<p>Q 定期巡回・随時対応型訪問介護看護についてはニーズが高そうだが、募集を取りやめたのか。</p> <p>A 第 6 期計画中は募集していない。第 7 期計画でどうするかという議論をふまえ、ニーズと供給体制を整えば、それを第 7 期の中に盛り込んで募集するという形になる。</p> <p>Q アンケートはすべての事業所に依頼したのか。</p> <p>A 235 事業所に調査依頼し回答を得た。</p> <p>Q 大幅な黒字が 29%、大幅な赤字が 24%、この要因は調査の中には入っていない。</p> <p>A 赤字要因については、今回調査はしていないが、供給過多、介護認定率も低下傾向にあり需要減、それに人材不足が重なり業績悪化しているのではないかと。 意見 サービス対価をシステムで組めていない所が赤字のように思う。実体がない仕事の、対価の請求の仕方がうまく理解できてない。黒字というところはしっかり請求業務が整っている所。</p> <p>Q ショートステイの定員が少なくなれば必要な時に利用できないという傾向になるのではないかと。</p> <p>A ショートの稼働率は今はそれほど高くないが、行き場がない方など調査し状況に応じて対応を検討していく。</p>
協議内容	(3) 地域ケア会議により把握された地域課題及び社会資源の状況について
主な質疑	<p>Q まだ課題もいろいろある気がする。</p> <p>A 地域ごとの課題を十分整理ができておらず各地域に共通するような課題については、取り組みを検討していかなくてはならない。事例を積み上げ対応について地域の方々に協力をお願いしていく。</p>
協議内容	(4) 自立支援施策の体系案及び施策目標案について
主な質疑	<p>Q 在宅医療に望むのは、家族間で格差がある。尊厳死についての考え方も浸透してない。啓発が必要ではないか。認知症の在宅患者がいる場合、認知症だから薬は飲めない。認知症の人を在宅で見るとするには、服薬管理のシステムづくりを早急にしないと。</p> <p>A 介護予防に関する啓発は非常に必要性を感じており、さまざまなチャンネルを作って取り組む必要があると思う。在宅生活者を支えるには、介護保険サービスのみでは不十分で地域の方々とどうかかわっていくのか問われており、地域ケア会議を使ったコーディネートのかかわりを具体化していく必要がある。</p>

	<p>Q 成年後見人の必要が感じられるが、後見人となってくれる人がどれくらいいるか。また、認知症の早期発見も含めて、皆がかかわっていただくような早期発見のシステムも作る必要がある気がする。</p> <p>A サポーター養成についても重点的な取り組みが必要。先般、包括支援センターで認知症の対策を開催したが、認知症への認識が地域全体に広がっている。</p> <p>成年後見人については、社共、市の現状もあり、昨年成年後見人の促進に関する法律が制定されたので、こちらとしても対応を早急に取り掛かりたい。</p>
協議内容	(5) 高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画の骨子案（目次）について
主な質疑	<p>Q 地域ケアふれあい会議は中学校単位だが、管轄が違った場合、担当者同士で共通認識や目標設定ができにくいのでは。</p> <p>A 町内会や協議会の連携はとても大切で、国からも市役所内で連携するよう指導をされている。内部でも話し合いが求められているので、今まで以上に連携が図れればと思う。地域ケア会議がもっと進んでくると、地域ごとの課題と言うのが出てくるので、そこでまた連携の道ができるのかなと思う。</p>